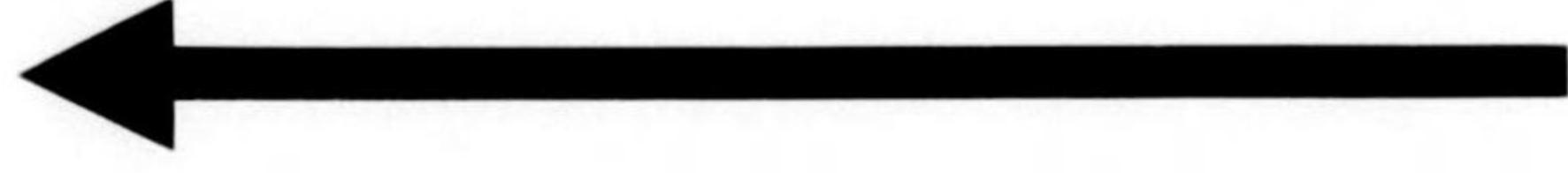


始



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 15
mm 60 1 2 3 4 5



石川光哉哉画伯編纂

西歐宗教名畫集



第七輯目次

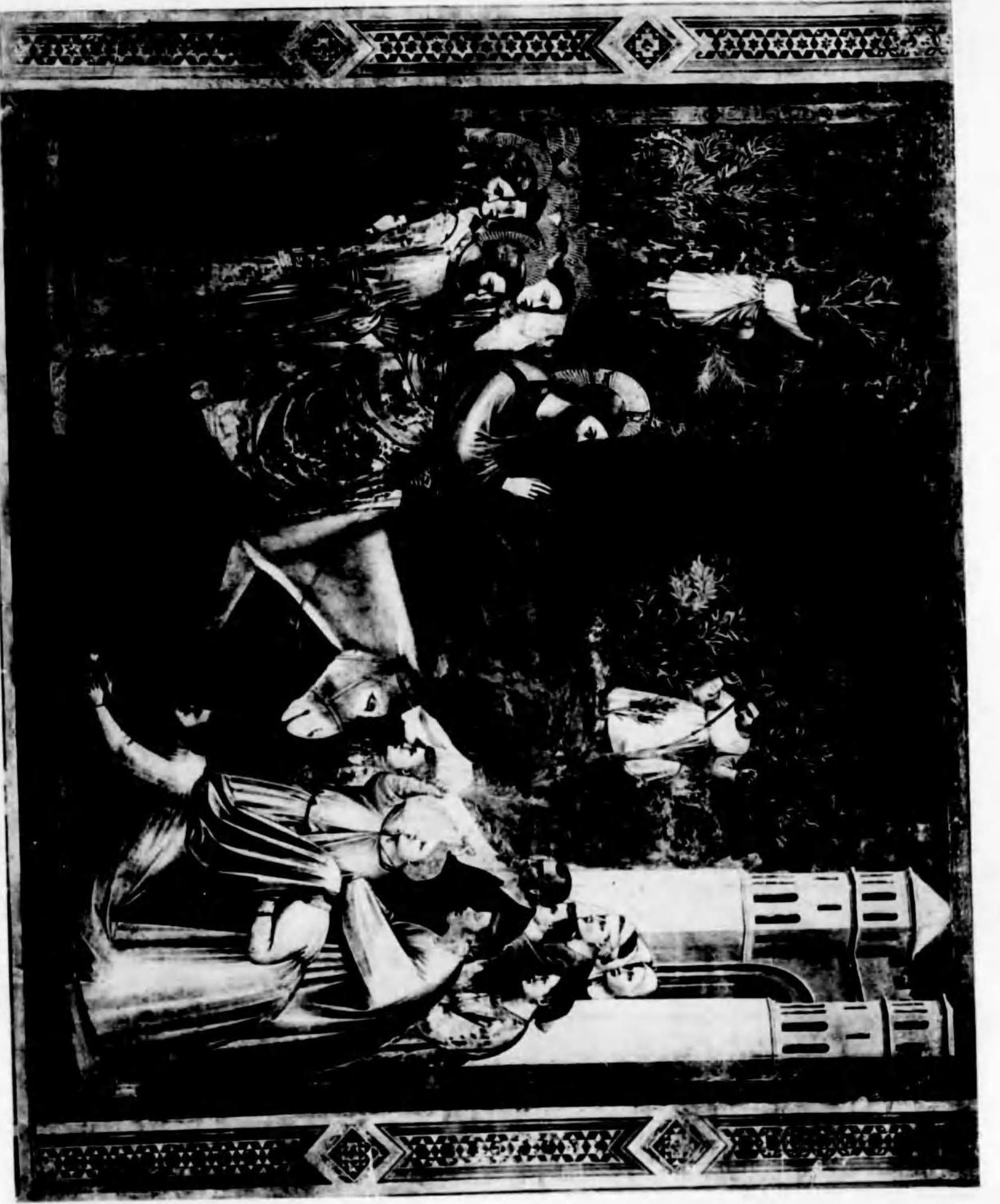
- 一、マグダレナ(三色版) ジオヴァンニ・ベリニ
- 二、善きサマリヤ人 レンブラント
- 三、メシヤの入京 ジヨツトオ
- 四、キリスト殿を潔む(三色版) エル・グレコ
- 五、キリストとカイザルの物(三色版) チューラノ
- 六、フランス鳥に説教す ジヨツトオ
- 七、ダンテの小舟 ユウゲン・ドラクロア
- 八、グレビュの教會堂 ジヤン・プランソア・ミレ
- 九、サンマルコ寺院
- 十、ラントス本寺

大坂市南区長堀橋筋
飯田字十号發行館

電話番九九四六南長番
番二三七八一版穴替番



欠



著者：マサコ・タケシ

五河光緒庚辰

欠



書道、フランス鳥二説教す

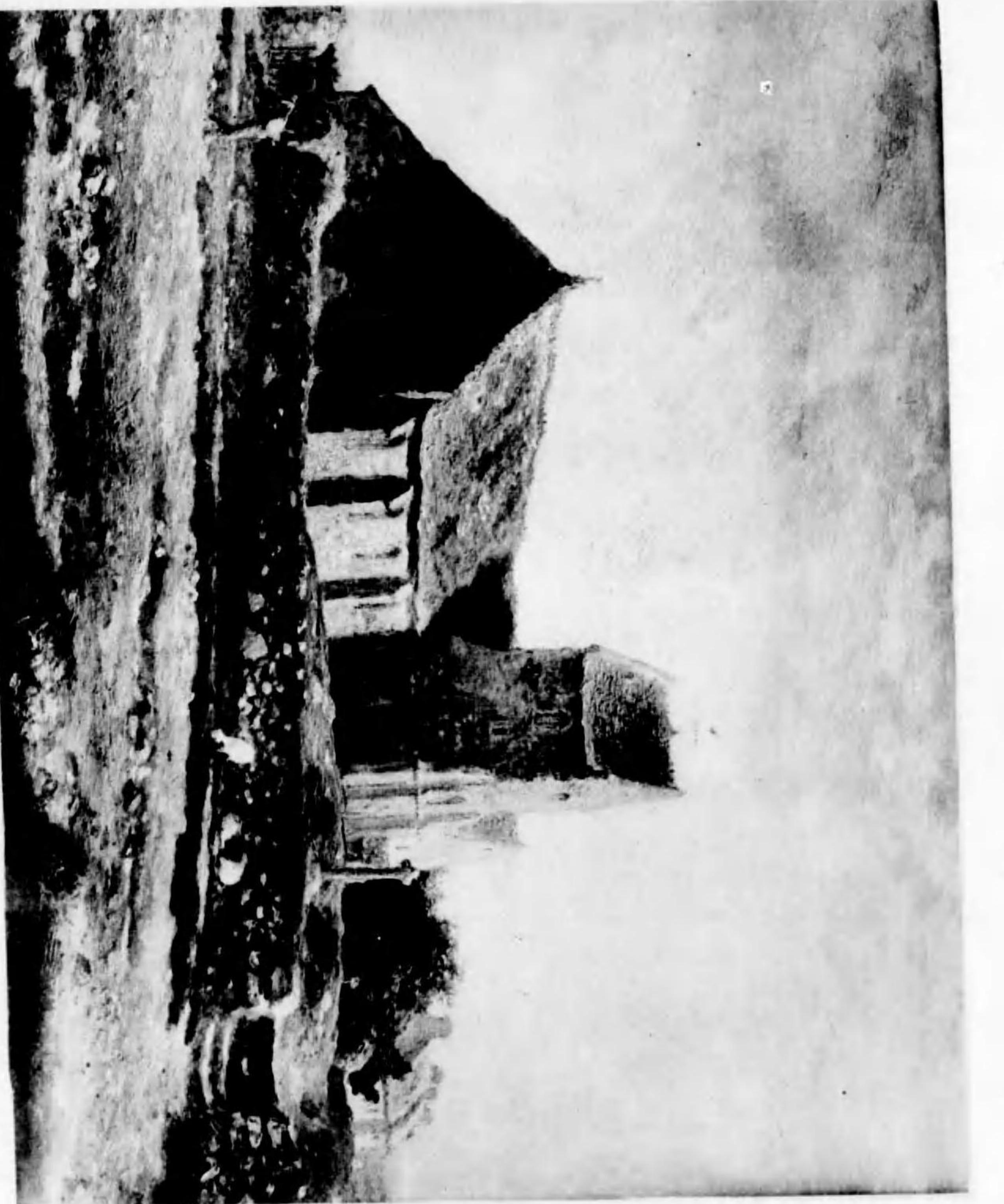
作者、ジヨツトオ Giotto (一二六七—一三三七)

作者、ジヨットオ (Giotto) (一二六七—一三三七)
所在、イタリー アッシジ 聖フランチエスコ寺院 S. Francesco, Assisi.



フランスの書籍は正統的書籍に並んで書簡や小説、戯曲なども並んでいた。彼の指し方には、アントワネットの「アントワネット」、マリ・アントワネットの「マリ・アントワネット」、ルイ・フィリップの「ルイ・フィリップ」などがある。彼の指し方には、アントワネットの「アントワネット」、マリ・アントワネットの「マリ・アントワネット」、ルイ・フィリップの「ルイ・フィリップ」などがある。

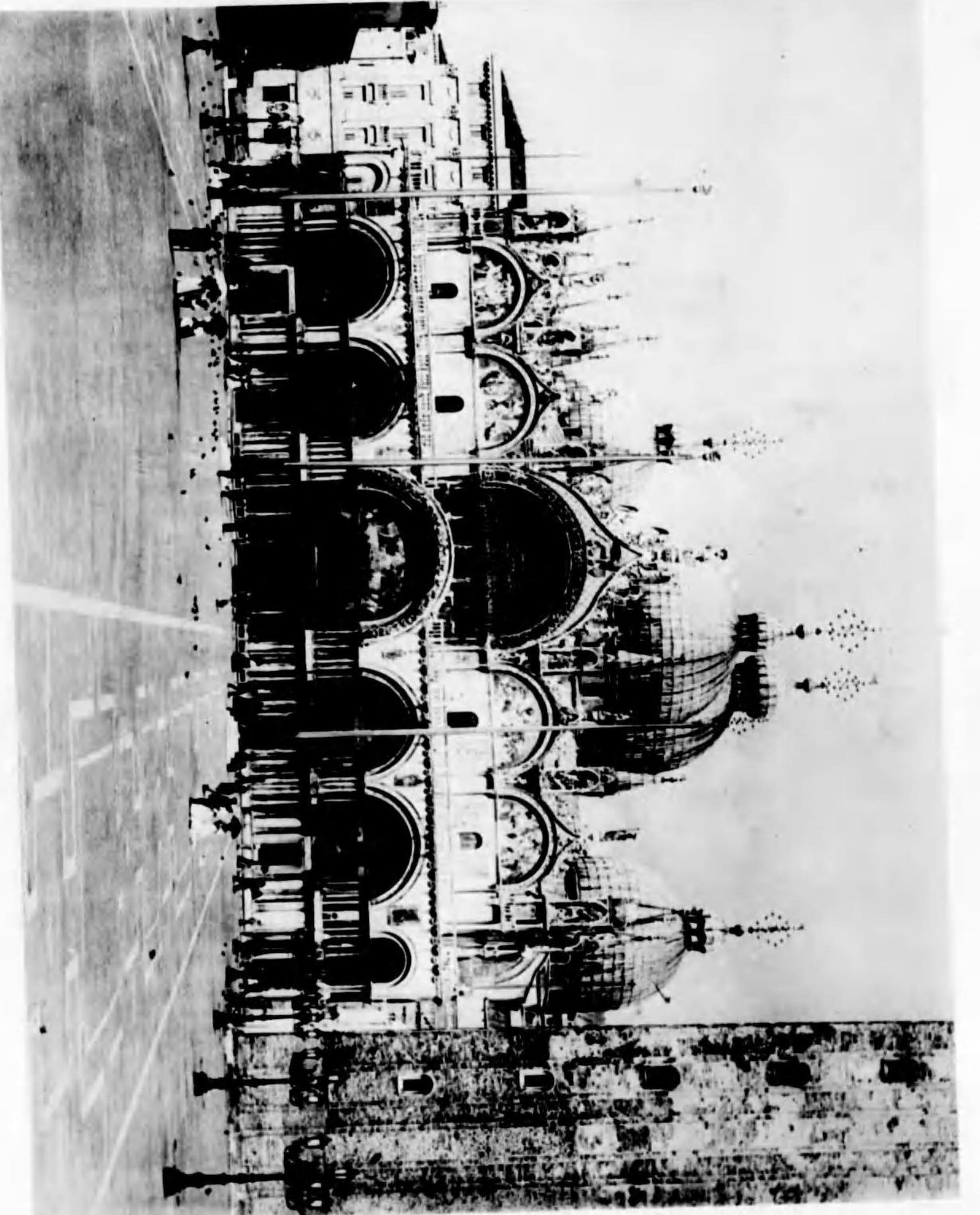
(3) すると彼はその陽子を前にぼーたん、その脇腹に感觸す
　　(4) 云つた「彼方へ去り船の火共に船はれ」
　　(5) 皆が叫んだ「フィリップ、アントニオ・シテイ」と
　　(6) 云ふて彼は胸にて私の頭を落さき、私が頭に推動して云つた「誠
　　(7) する」と激せるフィリップの聲は向をおのれ自らに向けた。
　　(8) 云ふて彼を見事に見事でたので、彼の事を此上進へない。
　　(9) おとこは彼にて眞似な人間であつた。彼の頭感を餘る事皆がないので
　　(10) かく彼の口音がこゝに詰々しいのである。やがて自ら怕るべき語



花の所見

著者、マリス、マリス、マリス Jean François Milliet. (一八一四—一八七五)

題，ケルビーフの教會堂



この資料は、内閣府の「令和元年版 地域活性化推進計画」に掲載されたものです。・内閣府

所在、ハ示テア

卷之三

題題、フランス本寺所在、フランス

解説

「建築を眞面目で見る程つまらぬものはない」とロダンに聽くまでもなく、若人はランスの寺院を行つて見るまでは眞にゴティックの美を了解することは出来ないものだ。

サン・マルクに於て若人は聖イタリイーと称するロマネスク様式の一層見ることが出来たが、ゴシック様式は眞にフランス・ゴシック・アーチ等北方の都市に多く見られるもので、紀元十二世紀頃にかけその影響を見るのである。若人の信仰が天へ天へとその様式は一見して知るゝ通りロマネスクの様式を改良してアーチを尖閣アーチにして垂直的構造的効果を強め、若人の信仰が天へ天へと向ふ力を強めてゐるかの様である。又堅厚であった構造を變へて軽々す支撑は多くせられ、堅多きものかられた薄き窓と塔とにとりて内部よりも外側を意識してゐる。

イタリイーの寺院は必ず多くの施設を有したが、ゴティック寺院は堅少な堅度を持つ施設は跡を絶ち、周囲が東へ西へ北へ南へと無数の便門をもつておる。そして正面には大きなバシリカ、裏面には側廊・回廊を以て天井が高め晴れ時起される。

即ちランス本寺は最も豪華のゴティック建築で代表的ものである。

「本寺の統一性」そのものは、實に偉大である。總算、周囲の施設である、鐘楼、門、此の偉大な生きもののあらわしの結構を支持するものは無様である。その結構は高貴で優雅で、これがみがきを強め光りし、周囲と調和し、世界に獨立する距離によつて表現せらるるものである。(ロダンの言葉)

實にランス本寺を建設したゴティックは當時には立派な藝術になつてゐた。しかし彼等は信仰に蒙されて之等の偉大な完成をなしたのである。

「信仰なければ美は生むされるとロダンが曰く。」

又立つて、他の人口も「神の間へと出でてこゝも出来るのである。」

それは故に彼等はこの大いなる自分の家を「教会」して榮め上げるのである。

彼等は極めて満足して働いてゐた云ふ、彼等は他們より、もつと大きな本寺を作らねば努力した。

彼等は實んで仕事に従事したので、かかる精神に關する偉大な一つの記念物を残してしまつた。殆ど一人の名建築家を躍り上けた様な統一的新の美を以て!

「ゴフカの木舟は自分の通りに渠まるまで我ふ様に航行せよと遣てられた。海賊に迷ふる者を遣してられた。海賊に迷ふる者を遣してられた。」(ロダンの言葉)

高村光太郎氏は、「アントラス」や「トラン」が夜人々の耳に墨入ると同じく、夫人の胸に這入れさせられた。(ロダンの言葉)

● 記念碑は、高村光太郎氏によれば、わづかに正面の外壁だけをとめることが出来たけれど、他の部分は像にも頭蓋の頭蓋の爲に成績された。

● 記念碑は、ランスの町の外から見れば本寺丈が併びの如く雄伟なる姿を現はして見える。それは本寺を裏側の方に向ひて建つてゐるから

而して本寺はまさに前方から頭蓋を切りたのである。それが祭壇の上方に位置する大穴を開いた。勿論根柢は落ちてしまつた。

頭蓋は、聖堂の頭蓋をして頭蓋を共にするために天井で表はれていた。故人は想せし頭蓋は青々として塔を瓦屋と断ふる。木製に上る。

このランスの頭蓋は、エルサレムの頭蓋が「朝に」と「晩に」との石造の上に運ばれていた。天に運ばれていた。

頭蓋は、聖堂の頭蓋をして頭蓋を共にするのであるから、頭蓋は、頭蓋を運ぶのであるから、頭蓋は、頭蓋を運ぶのであるから、



終